



ぬますぎの上に  
 広がる青空  
 グランドに  
 湧き起こる喚声  
 なぜ 自分は  
 このクラブを選んだのか  
 なんのために  
 こんな苦しさに耐えるのか  
 したたる汗  
 静まりゆく鼓動  
 記録とわたし  
 たたかいは 果てしない  
 若い生命の燃焼に  
 秋の風がほほえむ

昭和55年10月1日  
 編集／発行  
 岡崎市教育委員会



(スタート - 南中)

(一) 道義心の退廃はすべてを破壊に導く  
 戦前から学校教育は大別して知育・徳育・体育という言葉で説明されてきた。そして円満な人間形成を目標とする義務教育では、これらがかなえの脚の如く調和し、発達することを期待してきた。

「健全な精神は健全な身体に宿る」——戦後、体育が学校教育のみならず、社会的、国家的なスポーツの奨励と相俟って、

茶を濁しているのでは、徳育の低下は当然であろう。本来、道徳教育とか情操教育とかいいう心情陶冶は、子どもの時代にしっかりと教育すべきで、高校・大学になつてからでは手遅れである。今回の文部省学習指導要領の改定要旨である「ゆとりのある教育」によつて、各教科の内容を精選縮小させ、もつて生じた「ゆとり」を、今こそ子どもの生活

で行き着いてどうにもならなくなつて、初めて目が覚める国民らしい。戦前の帝国主義・軍国主義も日清・日露の両戦後までで納めるべきであつた。それが韓国併合、満洲国の擁立、更に、大東亜の制覇にまで野心を広げたことによつて、これまでの努力犠牲が全く水泡に帰してしまつた。

—教育随想—

# 私の教育所感

永見貞三



隅々まで普及したことは結構である。問題は「健全な精神」で、この対象は知育と徳育である。戦後今日までの学校教育の経過を省みるに、これは、どうしても知育偏重、徳育軽視と言わざるを得ない。だいたい戦後の教育課程が、各教科の目標を小中学校の義務教育までも高専並みの直接目標（実質陶冶）にのみおき、人間教育としての間接目標（形式陶冶）には殆ど触れず、週一時間の道徳教育でお

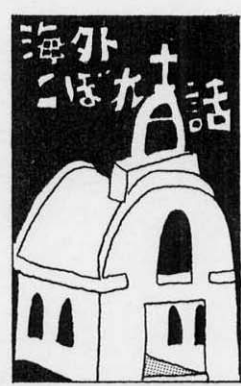
指導や徳育向上に充当してほしい。人間はいくら知識が進んでも道義心が退廃しては、いつの日か、すべてを破壊に導くことを知るべきだと思う。

(二) 過ぎたるは及ばざるより尚悪し  
 「過ぎたるは及ばざるが如し」という諺があるが「過ぎたるは及ばざるより尚悪し」というのが、この頃の私の実感である。日本人はどうも「腹八分目」ということができなない国民らしい。行く処ま

戦後は反対に自由主義・民主主義に代わつた。そのこと自体は結構なことであるが、これとて最近では行き過ぎて、自由をはき違え、権利が横行し、責任感が後退した。戦後しばらくして物資が豊かになり、国民の生活は戦前と比較にならない程ゼいたくになった。それならば、国民は等しく感謝しているかという、必ずしもそうではない。今日ほど告訴の多い時はない。これは不平不満が多いということである。これではいつまでたつても幸福感はない。生活がある程度安定すれば、それから先は、何につけても報恩感謝の念が持てる人こそ其の幸せな人だと思ふ。したがつて「人の幸せは、その人の心根の如何による」と言えよう。

自由主義・民主主義も程々にしておかないと弊害が出てくることを知らねばならない。行き着いてからでは遅い。もうこの辺で総反省、出直ししてもよいのではあるまいか。それには教育に俟つよう方法はないと思ふ。

（愛知教育大学教授  
 名古屋芸術大学教授）

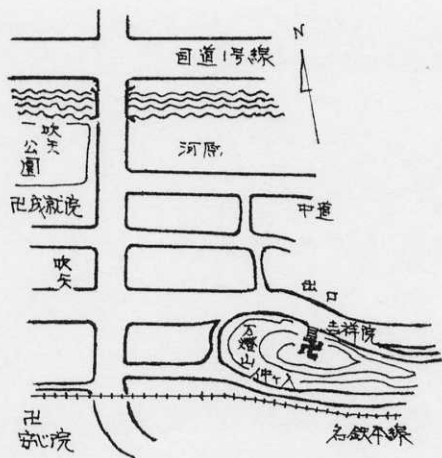


ONCE MORE

大嶋由美

夜七時日本を出発。出発した日の朝八時にハワイ到着。一日得したような気持ち。テレビスターのように、片手にパスポート、もう片方には旅行鞆、ジャケツトをおおつて、さつそうとゲートをくぐろうと思つていたけど、時差で頭の中は真白。十時間以上座りっぱなしでくたくた。疲れきつた足どりでゲートをくぐると、なんとほんとうのブルースカイノ前に友人がハワイに行き、その感想を、目の中のごみがとれたようなの。白いくつがほんとうに真白に見えるの。空の青いのつたらないのよ。」

と言つていたのを思い出した。この空の青さ、日本の夏のようにジメジメして、なく、さわやかそのもの、ヤングの島です。街を歩く人々は、ジョッキングパンツあり、水着あり、人それぞれである。ローラースケートにウォークマン、自由の風の中、私もジョッキングパンツで買物。そして一番素晴らしいと思つたのは、オールドハワリーのすこいこと。六十歳の



—ふるさととの山河—

# 万燈山

名鉄東岡崎駅より東にいったところ、東明大寺町出口に、万燈山がある。その中腹には三河新四国めぐり、「三十一、三十二番札所の吉祥院がある。」「万燈山」と刻まれた古い石碑と「鯖大師」(鯖を右手に持った弘法大師で、百日咳やぜんそくに「利益があるという」)の像に迎えられる、細く曲りくねった石段を上ると吉祥院に着く。木陰と苔むした岩や立ち並ぶ地藏尊の顔を見ながら、静けさと涼しさを満喫する。

学区の子どもたちは、「万燈山」をよく知っている。古戦場の旧跡であり、子どもたちのチャンバラやかくれんぼの遊び場でもある。

山頂には、樹令二百年の大松が枝をはっており、周辺には石仏や石碑が囲むように立つ。旧盆八月十五日には万燈祭で多くの信者と見物人を集めて祈禱が行われる。

万燈山付近は、古くから、鎌倉街道の

れる。人びとはここを「千人塚」とよぶ。市史には、一五〇六年(永正三)に北条早雲が今川方の大将として岡崎の松平長親を攻めたが、敗北して多くの死者を出したとある。そして、多くの武士の骨や武具が埋められたため、千人塚と呼ばれその霊をとむらうために、松明や祈禱を行うようになった。

また、「絵女房塚」と呼ばれることもある。昔、帝が宮中の庭で絶世の美女の姿に出会い、その美女はまもなく姿を消した。帝は彼女を忘れがたく、その姿を絵師にかかせて、全国に配って探させた。ついに、明大寺に住む富豪の娘が生き写しであるということで、都へよんで妃にした。彼女は百歳まで生き、その死後亡骸は遺言で明大寺に葬むられたと伝えられる。



(竜海中 大山一男)

通過地であり、出口という字名も矢作東宿の出口ということからきている。浄瑠璃姫と義経の悲恋話や小豆坂、明大寺合戦の古戦場にまつわる地名や伝説が多い。吉祥院が建ったのは、今から八十年ほど前であるが、この寺は祈禱道場で有名になった。初代住職が修業中に山の霊にふれ、「山頂を清浄の地にせよ」との声を聞いたので、心通霊神の碑や弁財天と池などを築造したと聞く。昭和の初めのころのことである。今は、祈禱やひき寄せによる道場として、地鎮祭、虫ふうじ、病氣平癒の祈願で信者を集めている。

最近、周辺の住宅化が進み、道路の拡張工事も行われ、大西と共にその姿を大きく変えようとしている。

緑あつて仏跡巡拝の旅をさせてもらった。何時間もバスに揺られて、やっとたどりついた聖地は、どこも大切に保存され、きれいに手入れが行き届いていた。二十余年の昔の遺構がそのまま広がり、釈尊の生涯をまのあたり感じることができた。四大聖地、多くの遺跡。経典をひもとき勤行をする。

広大なインドの自然は見渡す限りの平野が続く。昔ながらの農業が営まれ、牛が、相変わらずの主役である。町のいたるところで牛はゆうゆうと歩き、道のまんなかに座り込む。車も人も、牛をよけて通る。驚いたことに、牛ふんも大事な燃料という。牛とインドは切りはなせないことを改めて知った。

人々は貧くても表情は明るく、こたわりがない。百年一日の如く時間の経過を忘れる思いである。だからこそ二十余年の歴史が、今そこに生きているのであろう。釈尊の原点に帰って、私の生活をふり返る機会を得たようであった。

(六名小)

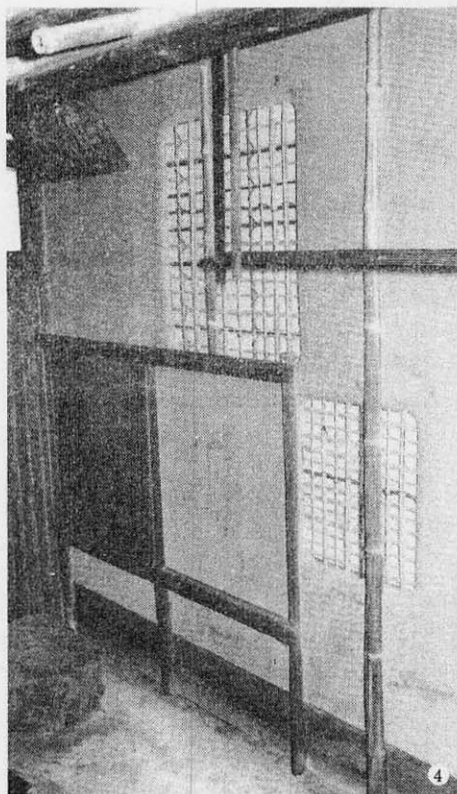
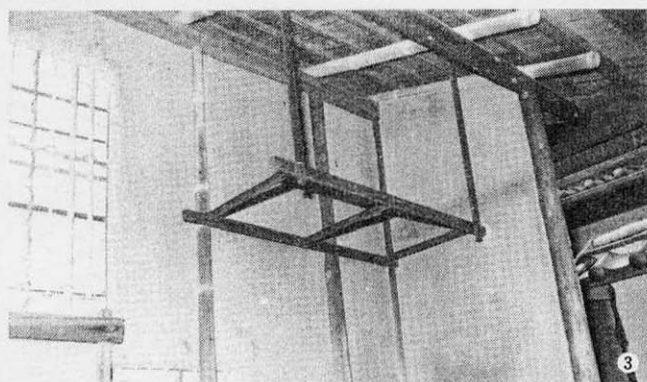
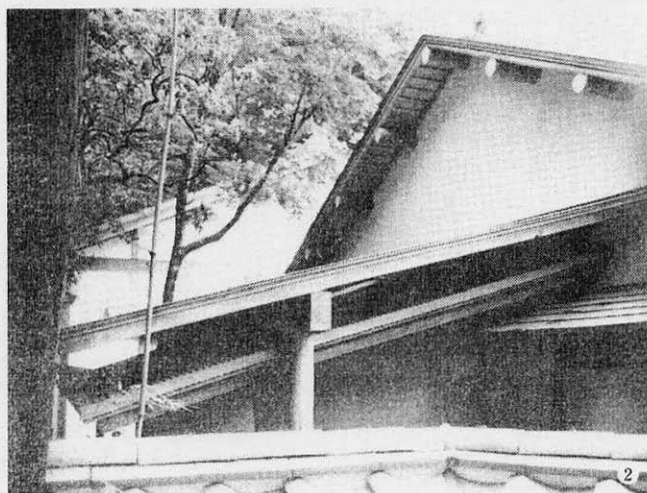
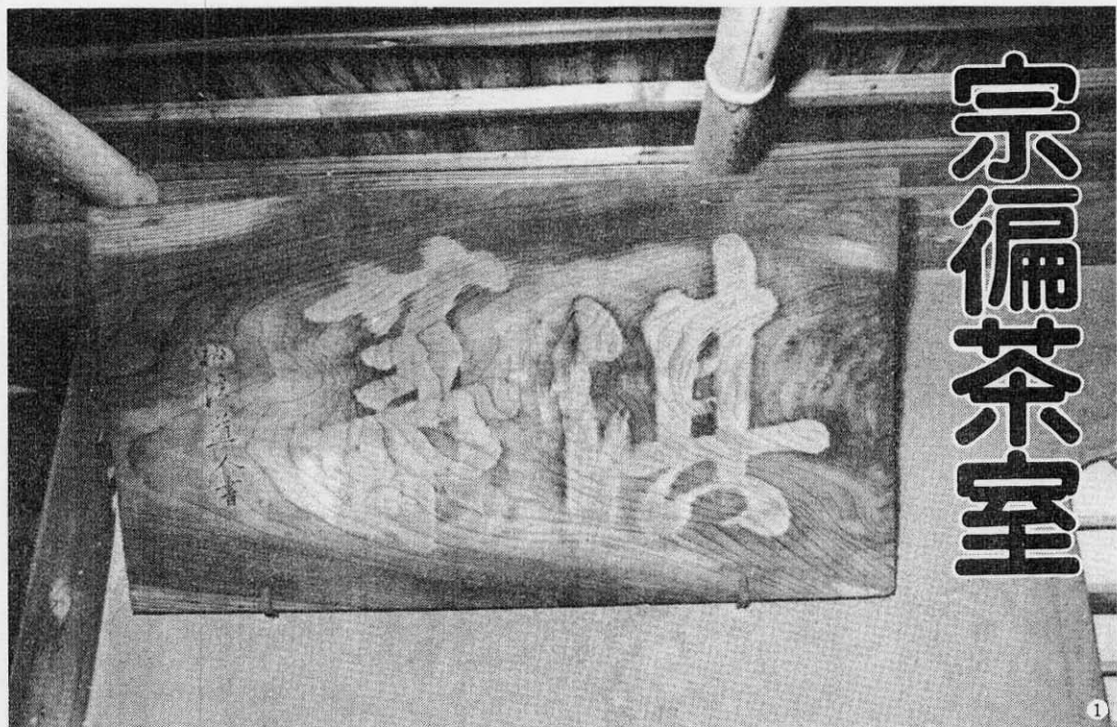
おじいさん真白なジョッキングパンツですきでした。日本では考えられないことが自然と思える島です。私も年老いたらもう一度、行ってみたい。そして真赤な水着でショッピングしてみたい。

(福岡小)

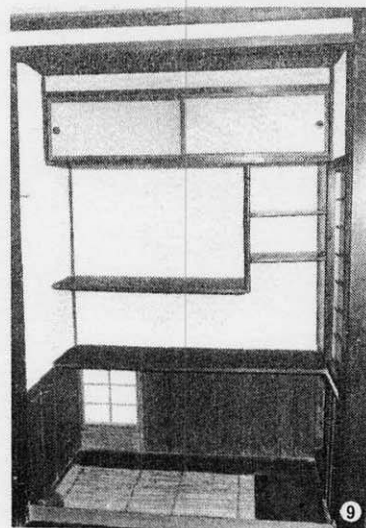
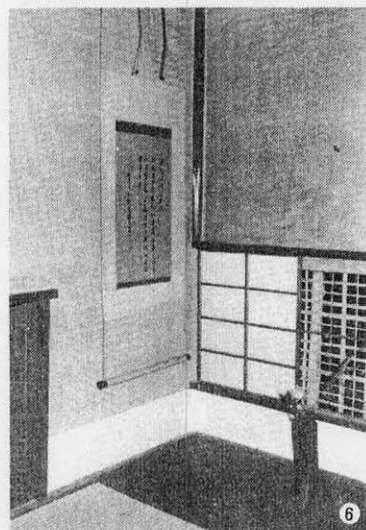
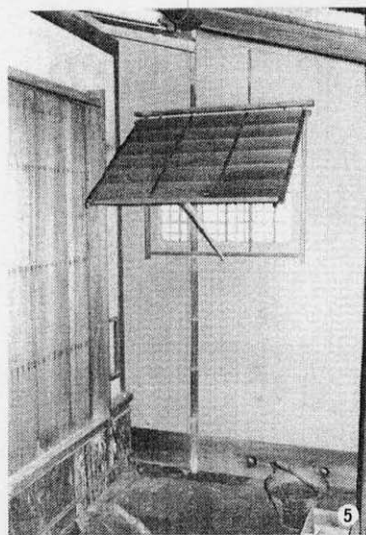
## インド仏跡巡拝

山岡恵了









伊賀町の明願寺に、淇菴、弟也齊庵と呼ばれる全国的に名の知られている茶室がある。

淇菴庵の「淇」というのは、中国四川省にある竹の名所ということとで、明願寺に竹が繁茂していたことから名付けられた。

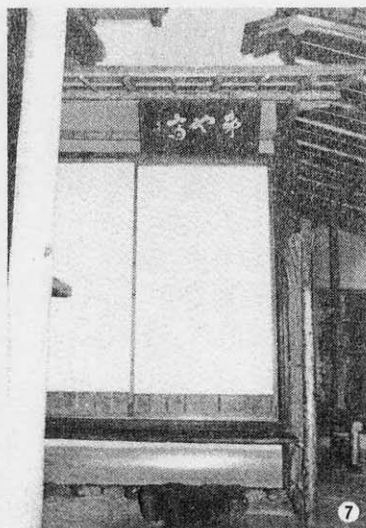
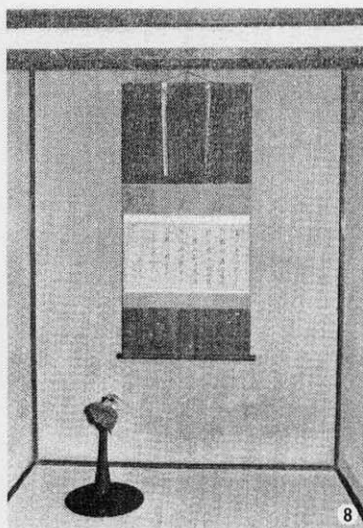
弟也齊庵の「弟也」は、論語から出たことばで、孔子が弟子をいつも弟也、弟也と呼んでいたことから、弟子の穉古間のため、このように名付けられた由である。

そして淇菴が県の文化財、弟也齊庵が市の文化財に指定されているが、近年痛みがひどくなったため、淇菴庵は京都の安井奎工務店、弟也齊庵は、名古屋の東陽土建という専門業者の手で昨年从今年にかけて修理された。

山田宗偏の茶室が岡崎の明願寺に移築された事情は、洪洋社刊の

数寄屋建築史図聚によれば、『山田宗偏は、千宗且の門に入りて茶道を学び、四方庵と号し、「茶道便家抄」「茶道要録」等著し、晩年江戸に出て、茶道普及につとめた。この数寄屋は、正保年中（一六六四―七）吉田城主小笠原忠知公に召されし頃、吉田に造立されたものらしく、その後宗偏の子久作が吉田より静岡掛川へ移築したるものを、享保二十年久作の子山田茂右門が、宗偏伝来の茶器と共に、明願寺住職種民に譲り、現地に移築したものである。その後、岡崎本多侯もしばしばこの席に来遊されたこともあり、宗偏の遺構としては唯一のもので、質朴簡雅な構想になる席としては代表的な茶室である。』とあり、江戸初期の茶室形式を今日に伝える、貴重な文化財である。

- 〈淇菴庵〉
- ① 扁額。桃溪書。
  - ② 全景。手前の屋根は弟也齊庵。
  - ③ 刀掛。茶道の前には身分の差がない。和、敬、清、寂、茶の心のみ。
  - ④ にじり口。大小の下地窓の配置が妙。
  - ⑤ 庵の北面。大小の力竹に、利休の考案が見られる。
  - ⑥ 庵の内部。左手に道庫が見られる。
- 〈弟也齊庵〉
- ⑦ 入口。簡素、清らかさ、美の三要素。
  - ⑧ 床の間。心きいた茶花は、一会の茶に風情を添える。
  - ⑨ 水屋内部。淇菴庵に接している。



## 教育日々



## 精一杯

## 秦梨小平国勇造

小学校ソフトボール大会、第一回戦は、本校対日校であった。結果は、奪対十五の完敗。例年だと、「やっぱり負けか。」「小さい学校が勝てるわけない。」と子どもの口から出てくるのだが今年はずっと違っていた。

「みんなよくがんばったね。わたしもヒットを打てたし。」

「満塁も二回あったし、とてもおもしろい試合だったね。」

「それに、もう一度日校とやってみたいね。緊張していないか。」

「爽やかな面持ちがある。」

ソフトの「ソ」の字も知らない女の子たちを相手に、練習を開始したのが四月である。キャッチボールもまともにできない



姿を見て、内心、「しんどいなあ」と感じた。しかし「やれるところまでやらなくては」と思いなおし、まずキャッチボールに練習を集中した。

「バッティングもやらせて。」

「キャッチボールばかりじゃおもしろくない。」

と、不平を言う子供たちに「うるさい。キャッチもろくにできんのに、何がバッティングだ、やらしてほしかったら、うまくなってみろ。」

とにかく、基本を徹底するのとだ、と信じている私は、強引に練習をさせた。

六月二十七日。対戦校が決まった。昨年の優勝校日校だ。これには、「また出ると負けか。」と力が抜けていく思いだった。

ところが、子供達は受け取り方が全然違う。みんながみんな「ようし、勝つてやる。」という意気込みが出てきたのだ。今までになかった子供の動きに少し感いながら、内心、「しめた」と思い、それからもう、日校を目標に必死だった。

「何やつとる。そんな球が打てんのか。」

「そんなが取れんでどうする。しっかりしろ。」

お世辞もあるだろうが「試合態度が非常によかった。」と相手の監督からほめられた。「試合に望む姿勢は決して負けていなかった」と慰めてはみるものもやっぱり胸の奥底で、「子供にすまない」とか「小規模校で」とか「しかし来年こそは」とか葛藤が渦巻いている。

## ふれあい

## 六中小小林鉦子

「お客さん」とレッテルを貼られたN君との出会いが始まった。小規模校のため、彼の仕事は職員室でもよく話題になった。少しは承知していたが、自分の学級の子となると「大変だなあ」との印象を持った。

学年初めの家庭訪問では、彼はとて喜んで出迎え、案内してくれた。母親から彼のことについて色々聞いたが、敬遠するの、彼の得意な面ばかり。例えば、カセットのことについては相当の知識を持っているようだ。私の訪問についての話し合いも、知らないうちに全部録音したらしく、

「先生の声、家で毎日聞いていますよ。」

と、得意になって話しかけて来る人なつこいところもある。

五年生の最初のテキストには、前任者から聞いていた通り、解答には一切手をつけていなかった。そのかわり、欄外に乱暴な字で「うらを見よ」と書いてあり、矢印がずうつと引っぱってあった。名前はたどたどしいローマ字で書いてあった。線を追って裏面を見ると、教室の座席の配置が書いてあり、自分の席を丸で囲み「この場はだれでしょう」と書いてあった。こうして自分の存在を印象づけようとするいじらしい一面も持っている。



者として、仕事もやらせず逆に彼の手伝いをするなど、過保護気味であった。そのためやろうとする意欲もなかった。彼を救うためには自信を持ち、責任を持ってやれる仕事を与えることが一番だと思い、はなやかな一面を持つ給食係を担当させた。初めは、彼も学級のみんなとまどっていたが、最近ではようやく、「静かにしてください。」「いただきます。」の声もスムーズに出せるようになった。

世によく言われる「落ちこぼれ」は、往々にして周囲の「落ちこぼれ」によって「落ちこぼれ」になって行くのではないか。まだまだ彼をみんなと同じ線に持って行くには、彼のよさを見出し励ましてやらなければと



# 多彩な十月行事

好季節を迎えて、教育の場も日ごろの成果を十分に発揮するスポーツや、学習の発表といった多彩な行事が実施される。以下、十月中の主な行事。

## 理科作品展

児童・生徒の作品や、クラブ・学級による共同作品を一堂に集めた第二十七回理科作品展は、十月十日～十二日の三日間、六名小学校体育館で行われる。

例年のように教師の県外研修参加記録や写真を主体とした展示コーナーも設けられる一方、父兄コーナーも新たに考えられており、いっそうの充実が期待される。

## 技術・家庭科作品展

教材の開発と技術の習得―設計と作品の精度を重視して―をテーマとした第七回岡崎市技術家庭科作品展は、十月十日、市

〔寄贈刊物・資料等〕

●岡崎地方民俗調査報告

第II集 河合地区とその周辺

岡崎市教育委員会

第I集(昭和四十六年)を刊

行して以来八年、岡崎地方史研究会民俗部員が足で調べ続けた貴重な書、B5版一三七ページ

●自然環境を保護する教育活動の記録

B5版 九八ページ

●思いやりのある矢作っ子の育成―異質集団活動―

岡崎市立矢作西小学校

研究実践を中間まとめとした紀要 B5版タイプ印刷

## 研究発表会

美川中の「豊かな経験を通して情報処理能力の育成をめざす―放送学習を生かす指導―」記念講演、NHKアナウンサー鈴木健二氏、九月二十四日の研究発表会に続き、十月中には次の各校が研究発表する。

◎六ツ美中10/3(金)

「わかる・できる・いきいきとした授業」を求めて―形成的評価による授業設計と実践―

◎奥殿小10/17(金)

観察力・資料活用力を育てる社会科指導―地域に教材を求めて―

◎福岡小10/28(火)

考える力を伸ばす理科学習、記念講演、横浜国大教授栗田一良氏

◎南中10/31(金)

進学指導

●中学校新人総合体育大会

九月十四日に葵中においての水泳競技に続いて、十月十九日

には陸上(六名公園)をはじめ、各種目の大会が行われる。

●小学校陸上競技大会

第十九回岡崎市小学校陸上競技大会は、十月二十六日に県営グラウンドにおいて市内三十八校が参加して行われる。

●学校保健

九月十一日、矢作中において健康優良児童生徒実地審査会に

続いて、十月九日(木)にはよい歯の児童生徒実地審査会を

幡小学校において行う。

なお、十月二十四日(金)には西三河地区学校保健研究大会

岡崎小学校で行われる。

●造形おかざきっ子展

「走れぼくらの夢の列車」を本年のテーマにした第十七回お

かざきっ子展は、十月二十五・六日の二日間、岡崎公園乙川河

川敷において行われる。

課題作品のほか、学校または

ブロック単位による自由作品、

造形コーナー、おみやげコーナ

ー等、本年も趣向をこらした展

示がなされる。

●後期教育実習

十月六日より二週間にわたつ

て後期の教育実習が開始される。

受け入れ校と実習生は次のとお

り。

本宿小―中京女大4名、細川

小―愛教大7名、岡女短大2名

大樹寺小―愛教大4名、岡女短

大6名、保育短大1名、矢作北

小―愛教大6名、保育短大1名

名短大1名、岡女短大3名、六

ツ美北部小―愛教大5名、名女

大1名、岡女短大4名、美川中

1名女短大3名、日福社大2名

愛知短大2名、名自由学院短2

名、東海学園1名、中京女短大

1名、矢作中―名市立女短3名

愛知短大2名、一宮短大1名、愛知短大2名、中京女短大2名名自由学院短2名

去る八月二十一日、中部日本放送主催ことも音楽コンクール名古屋大会に参加した矢作中学校は、合唱の部において参加中学校三十七校の中から最優秀校の栄に輝いた。

同校はこのあと、十一月月中旬に行われる西三河大会、続いて東三河大会でそれぞれ最優秀に選ばれる二校とともに、十二月二十一日の中部日本大会に、愛知県代表として出場する。

## 最優秀校に矢作中



# 犬頭神社の狛犬



所在地—岡崎市宮地町 馬場

主人の危機を身をもって救った白犬の首塚が、犬頭神社のいわれという。大鳥居をくぐると、松並木から降るせみ時雨に、変電所のうなる音もかき消されてしまった。

ここ、犬頭神社には、市指定文化財の狛犬と唐猫があるというので、社殿のあちこちを捜したが、なかなか見つからない。やっとのことで、奥殿の祠の左右に鎮座している一対の狛犬を玉垣ごしに見つけた。

できよろ目をむいているところはどこの狛犬もかわらないが、背を覆う長髪は、ちよっとモダンでいきな感じがする。小柄で彫りも単純で、どこともなくやさしく愛らしい狛犬である。慶長十五年閏二月、まだ家康が江戸城に健在であった頃、岡崎城主本多豊後守が、武運長久・子孫繁栄を願って献納したと、阿曇一対それぞれの背中に彫り込まれていた。

唐猫は社殿の中に大切に保管してあるという。会えなかったのが残念であった。

●カット

六ツ美中 中山敬子

## この本を

- 男を見る目 25章 草柳 大蔵 ￥ 980
- 干潟は生きている 栗原 康 ￥ 380
- ノ ラ ヤ 内田 百問 ￥ 320
- 図説歴史散歩事典 井上 光貞 ￥ 1,200
- 現代にほんご草紙 外山滋比古 ￥ 1,100
- ある終戦工作 森 元治郎 ￥ 440
- 項羽と劉邦 (上・中・下) 司馬遼太郎 ￥ 1,100
- 徳川家康 桑田 忠親 ￥ 1,900
- ことわざの風景 多田道太郎 ￥ 1,500
- わかる授業を創る話し方 原栄一・永上正他 ￥ 1,500

おそろしや。

冷夏の年は大地震があるってほんと？  
防災の日の夜ガタツときた地震の子供  
に家中がびっくり。机にもぐったり、ざぶとんをかぶったり。おかげで茶の間は地震の話でもちきり。防災意識の高揚はできたが……。

災害は忘れないでもやってくる。

## オアシス

しめじご飯、さんまの塩焼き、まつたけのお吸いもの、デザートのかき。食卓には、秋の味覚がところ狭しと並ぶ。今年も冷夏で夏バテも、夏やせもせずに秋を迎えた。これ以上太ると困るな。でも今年も、太め美人が流行なんだって……。「おかわりくださいい。」

あふれる若さを競うスポーツの秋、運動会たけなわのシーズンだ。  
駆けつこは、幼い子ほど愛らしい。真剣な目つきで無心に走るわが子に、日ごろむつりのおやじも声援を送る。  
米のできぐあい心配されているが、くだものはどうだろう。  
くり、なし、かきは、味覚の王者か。  
酢の物など和風のものを敬遠し、一にカレー、二にハンバーグと味覚まで「犬の卒倒」ではないが、「ワンパターイン」になっていると学校給食経験者の味覚調査結果が報告された。  
幅広い味覚訓練なしに育った結果であろうが、給食もそろそろ栄養重点主義からの脱却をはかる必要があるろう。